

平成29年度こんにやく原料需給計画

(単位:精粉20kg/袋)

項目 年度(29.11~30.10)	需 要 量 (消費量)	供 給 量					期末在荷量
		期初在荷量	国内生産量		輸入量	供給量合計	
			生産量	春切り量			
計画値計算式	a:注2①参照	b:前年期末	c:実績	d:前年並	e:注2⑤⑦参照	f=b+c+d+e	g=f-a
原料(国内・輸入) 数量見込	263,400	221,600	286,500	5,000	11,900	525,000	261,700
(前年度実績)	268,300	146,900	322,000	5,000	16,000	489,900	221,600
製品 輸入数量見込	29,500				29,500	29,500	
(前年度実績)	29,300				29,300	29,300	
合計	292,800	221,600	286,500	5,000	41,400	554,500	261,700
(前年度実績)	297,600	146,900	322,000	5,000	45,300	519,200	221,600
前年比(%)	98.4%	150.9%	89.0%	100.0%	91.4%	106.8%	118.1%

注1)ラウンドしているため加減があわないことがある。

注2)算出方法は以下のとおりである。なお、③は平成27年度需給計画から、①、⑤、⑦は平成28年度需給計画から変更している。また、生産量、在荷量に関しては平成27年度からの計算方法の変更及び今年度(29年度)から農水統計の全国生産量推計方式による生産量算出方法に変更したことに伴い21年度まで遡って再計算しているため、平成27年産以降のこんにやく原料需給計画とそれ以前の発表数値は連続しない。

①合計需要量は21から28年度の実績を基に回帰式を求め、これの予測値から292,800袋とした。

原料需要量は合計需要量から製品需要量(=製品輸入量)を引いて263,400袋とした。

②期初在荷量は、平成28年度期末在荷量221,600袋とした。

③生産量は、平成29年産(農水統計方式により算出(64,697×1,000×歩留(8.858%)÷20kg=286,542)し、286,500袋と見込んだ。

④春切り量は、前年並みの5,000袋と見込んだ。

⑤原料輸入量は、平成29年11月から2月における4ヶ月間の輸入実績の前年同期比増減率(-25.7%)を前年度1年間の原料輸入量に乗じて11,885袋とし、11,900袋とした。

⑥製品輸入数量は原料輸入量と同様に、平成29年11月から2月における4ヶ月間の輸入実績の前年同期比増減率(0.7%)を前年度1年間の製品輸入量に乗じて29,489袋とし、29,500袋とした。

⑦期末在荷量は、原料供給量合計(525,000袋)から原料需要量(263,400袋)を差し引いた、261,700袋とした。